

ANAホールディングス株式会社 説明会

2017年3月期 第1四半期 決算説明会

取締役 執行役員
平子 裕志

2016年8月3日



目次

2016年度 第1四半期 決算

業績ハイライト	P. 3
連結決算概要	
経営成績	P. 4
財政状態	P. 5
キャッシュフロー	P. 6
セグメント別実績	P. 7
航空事業	
収入・費用	P. 9
営業利益増減要因	P. 10
国内旅客事業	P. 11-12
国際旅客事業	P. 13-15
国内貨物事業	P. 17
国際貨物事業	P. 19-21
LCC事業	P. 23
航空事業以外のセグメント	P. 24
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 25

補足資料

運用航空機数	P. 28
国際旅客 方面別実績(構成比)	P. 29
国際貨物 方面別実績(構成比)	P. 30

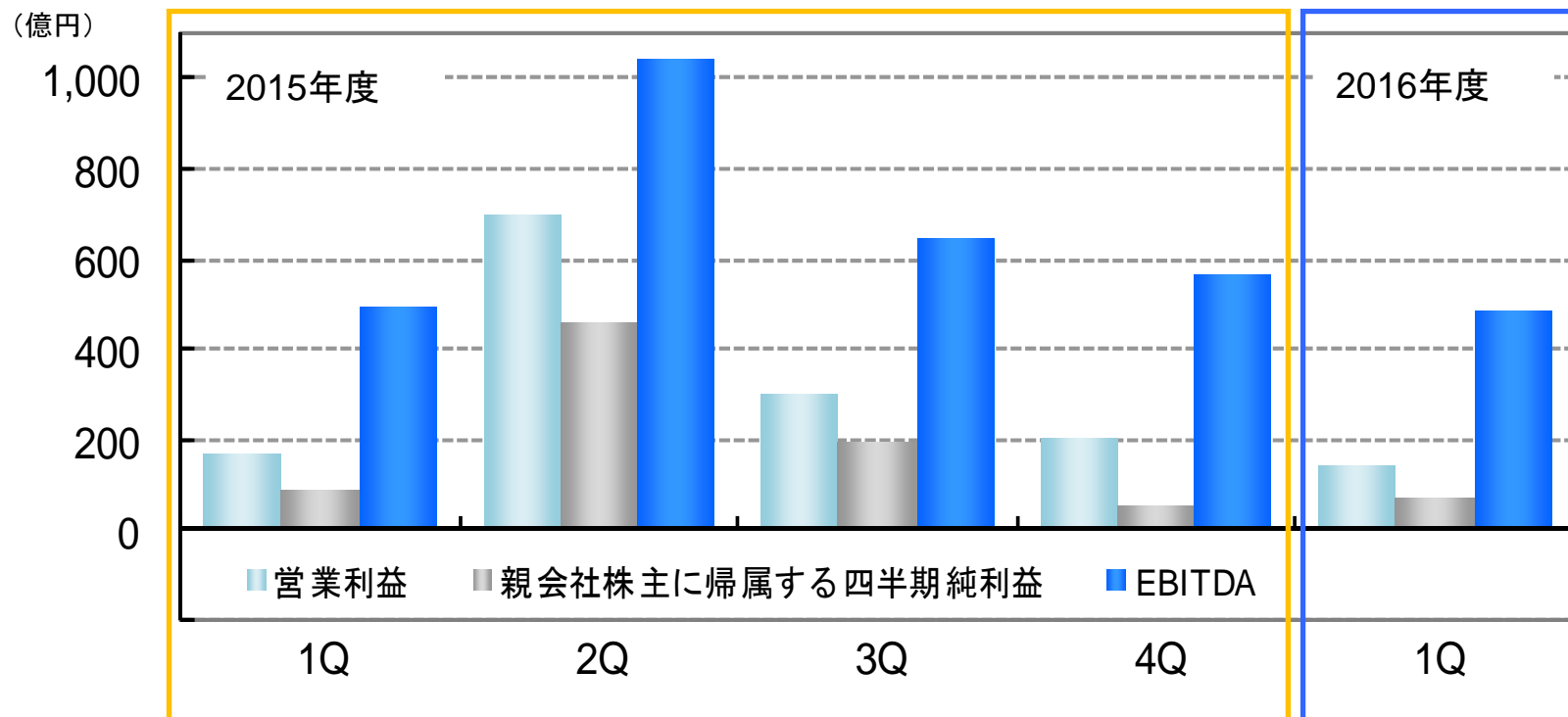
※ 今年度より、貨物事業における代理店向けの「国際貨物販売手数料」を廃止したことから、収入と費用をネットしています。

業績ハイライト

当第1四半期と前年度各四半期の業績比較

【2016年度 第1四半期(連結)】

- 営業利益 : 141億円 (前年同期比 △ 26億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 66億円 (同 △ 17億円)
- EBITDA : 481億円 (同 △ 12億円)



連結決算概要

経営成績

単位:億円

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差
売上高	4,138	4,044	△94
営業費用	3,971	3,902	△68
営業利益	167	141	△26
営業利益率(%)	4.0	3.5	△0.6
営業外損益	△8	△34	△26
経常利益	159	106	△52
特別損益	△0	1	+1
親会社株主に帰属する四半期純利益	83	66	△17
四半期純利益	84	67	△17
その他包括利益	207	△168	△376
包括利益	291	△101	△393

連結決算概要

財政状態

単位: 億円

	FY2015 期末	FY2016 第1四半期末	前年度 期末差
総資産	22,288	22,269	△18
自己資本	7,898	7,625	△273
自己資本比率(%)	35.4	34.2	△1.2
有利子負債残高	7,038	7,436	+ 397
D/Eレシオ(倍)*	0.9	1.0	+ 0.1
純有利子負債残高 **	4,262	4,357	+ 95

* オフバランスリース債務額 628億円(前年度期末 690億円)を含むD/Eレシオは1.1倍(前年度期末1.0倍)

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金 + 有価証券))

連結決算概要

キャッシュフロー

単位:億円

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差
営業キャッシュフロー	776	395	△381
投資キャッシュフロー	90	△388	△479
財務キャッシュフロー	△397	194	+ 591
現金及び現金同等物の増減額	469	200	△269
現金及び現金同等物の期首残高	2,089	2,651	} + 200
現金及び現金同等物の期末残高	2,559	2,851	
減価償却費	326	340	+ 14
設備投資額(固定資産のみ)	589	363	△225
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	223	109	△113
EBITDA (営業利益+減価償却費)	494	481	△12
EBITDAマージン(%)	11.9	11.9	△0.0

連結決算概要

セグメント別実績

単位:億円

		FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差
売上高	航空事業	3,571	3,508	△63
	航空関連事業	578	613	+ 35
	旅行事業	363	341	△21
	商社事業	352	344	△7
	報告セグメント計	4,865	4,807	△57
	その他	79	83	+ 3
	調整額	△806	△847	△40
	合計(連結)	4,138	4,044	△94
営業利益	航空事業	152	126	△26
	航空関連事業	19	24	+ 5
	旅行事業	5	6	+ 0
	商社事業	14	10	△3
	報告セグメント計	191	167	△23
	その他	3	4	+ 0
	調整額	△27	△30	△3
	合計(連結)	167	141	△26

Intentionally Blank

航空事業

収入・費用

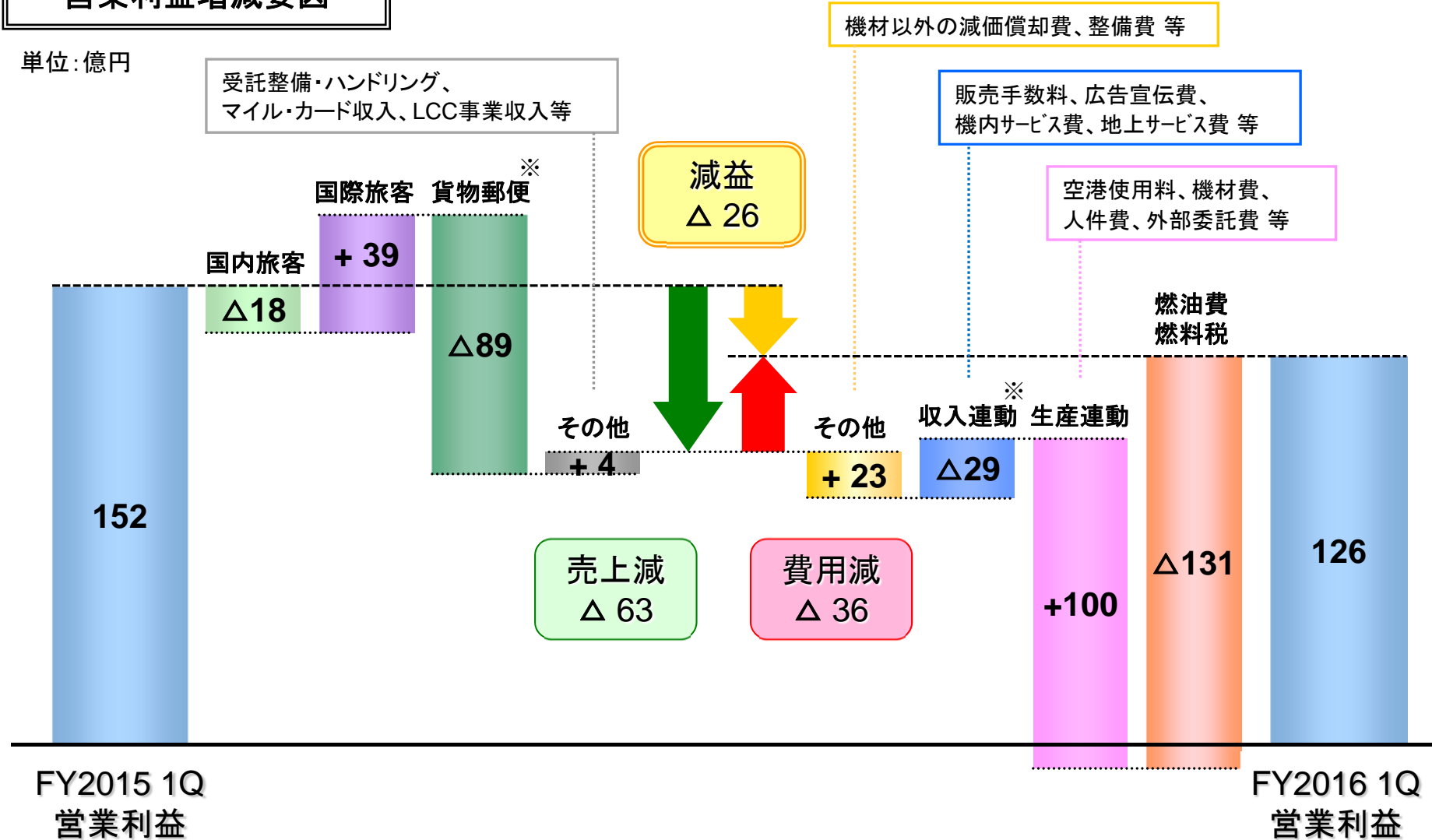
単位：億円

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差	
売上高	国内線旅客	1,523	1,505	△18
	国際線旅客	1,193	1,233	+ 39
	貨物郵便	387	297	△89
	その他	467	472	+ 4
	合計	3,571	3,508	△63
営業費用	燃油費・燃料税	799	668	△131
	空港使用料	281	278	△2
	航空機材賃借費	227	250	+ 22
	減価償却費	310	324	+ 13
	整備部品・外注費	233	246	+ 12
	人件費	418	451	+ 32
	販売費	266	230	△35
	外部委託費	444	487	+ 42
	その他	437	446	+ 9
	合計	3,419	3,382	△36
営業利益	152	126	△26	
EBITDA (営業利益+減価償却費)	463	450	△12	
EBITDAマージン	13.0	12.8	△0.1	

航空事業

営業利益増減要因

単位: 億円



※今期から代理店向け「国際貨物販売手数料」を廃止したことにより、収入と費用をネットしています。

航空事業

国内旅客事業(実績)

(バニラエア含まず)

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	14,464	14,393	△0.5
旅客キロ(百万)	8,851	8,792	△0.7
旅客数(千人)	9,911	9,789	△1.2
座席利用率(%)	61.2	61.1	△0.1*
旅客収入(億円)	1,523	1,505	△1.2
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	10.5	10.5	△0.7
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	17.2	17.1	△0.5
単価(円) (旅客収入/旅客数)	15,374	15,378	+ 0.0

* 座席利用率のみ前年差

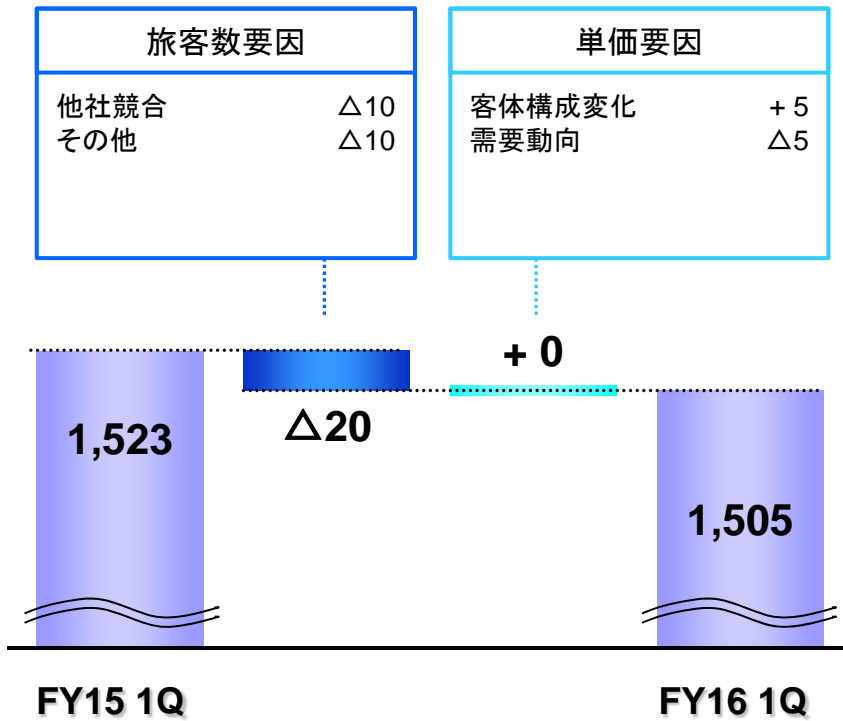
航空事業

国内旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

第1四半期 収入増減要因

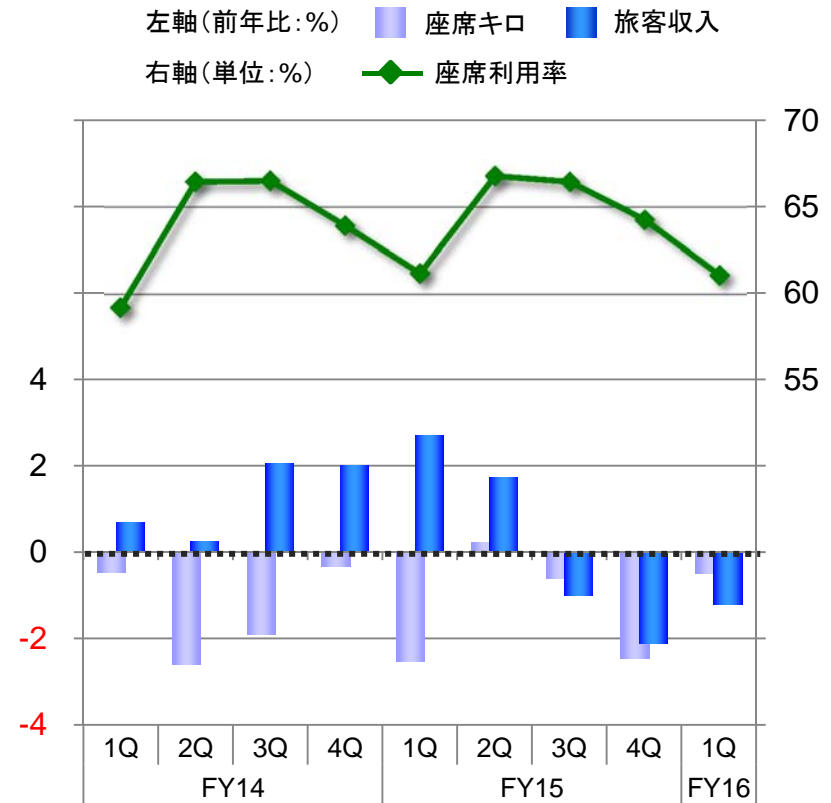
✓熊本地震で旅客数が減少、単価は前年水準を維持



単位:億円

四半期別 座席キロ・収入・座席利用率推移

✓座席キロを抑制、前年並みの座席利用率を維持



航空事業

国際旅客事業(実績)

(バニラエア含まず)

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	12,601	14,612	+ 16.0
旅客キロ(百万)	9,194	10,663	+ 16.0
旅客数(千人)	1,910	2,131	+ 11.6
座席利用率(%)	73.0	73.0	+ 0.0*
旅客収入(億円)	1,193	1,233	+ 3.3
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	9.5	8.4	△10.9
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	13.0	11.6	△10.9
単価(円) (旅客収入/旅客数)	62,481	57,868	△7.4

* 座席利用率のみ前年差

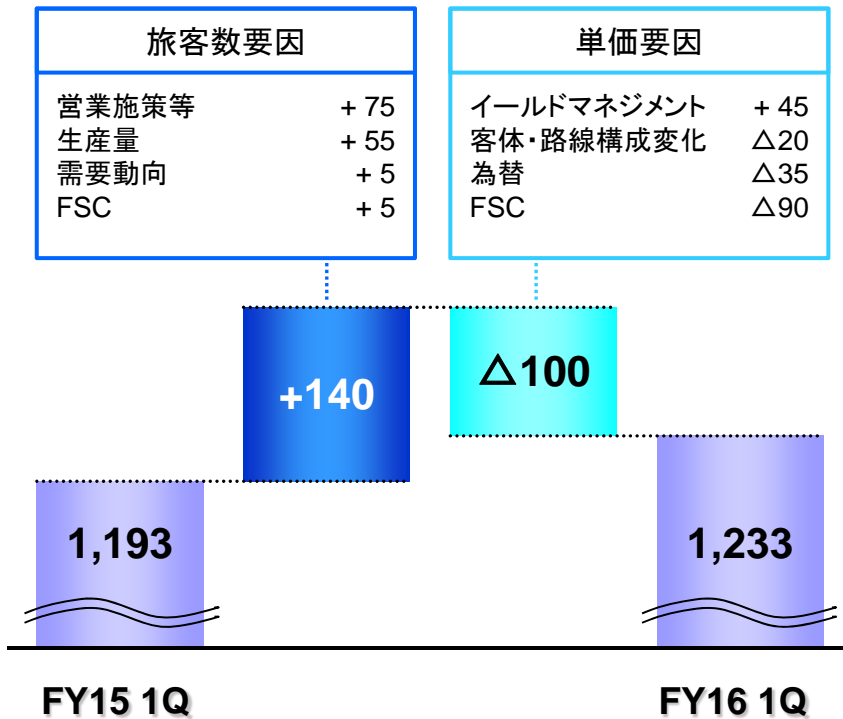
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

第1四半期 収入増減要因

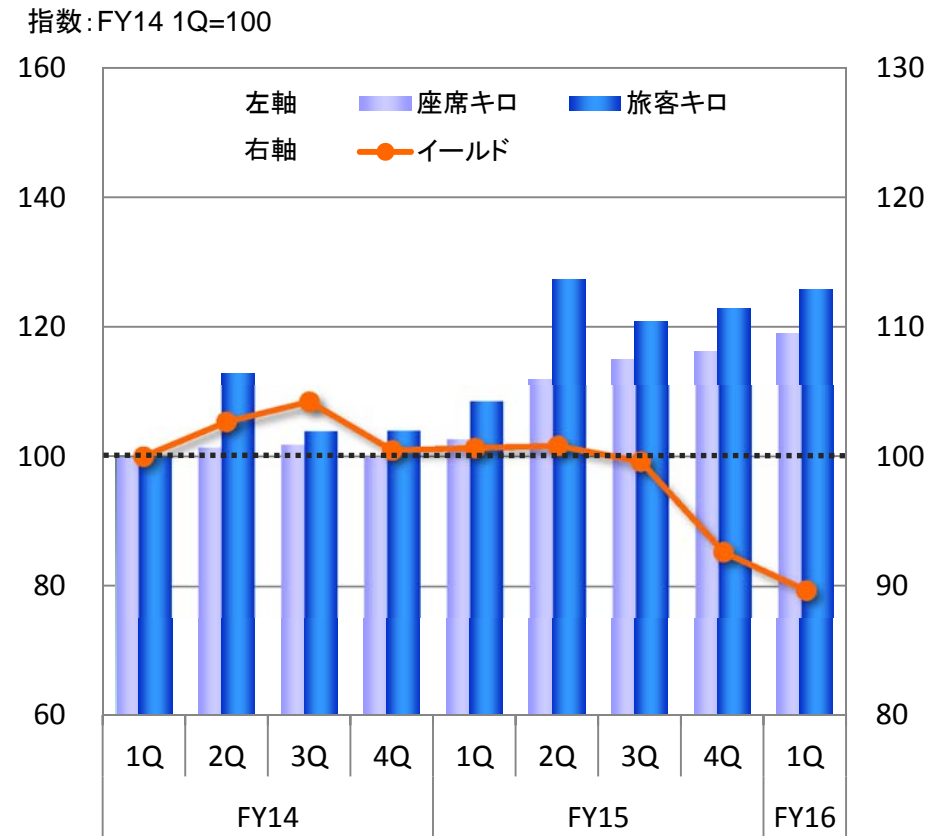
✓市況の影響で単価が下落する中でも増収を実現



単位:億円

四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓生産量の拡大に見合った需要を獲得



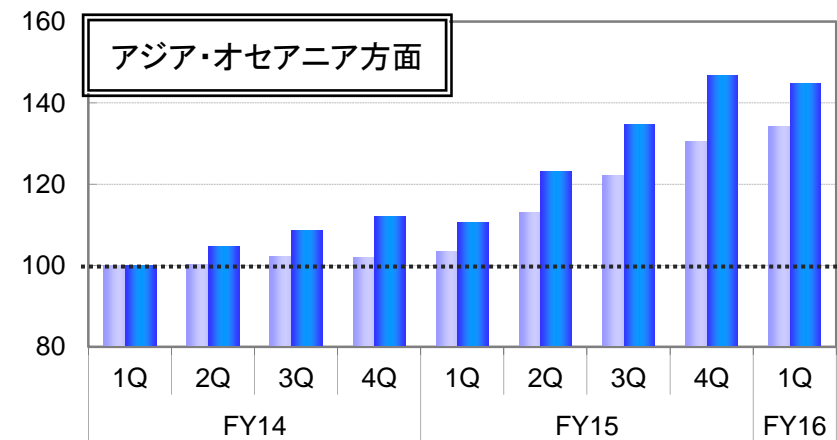
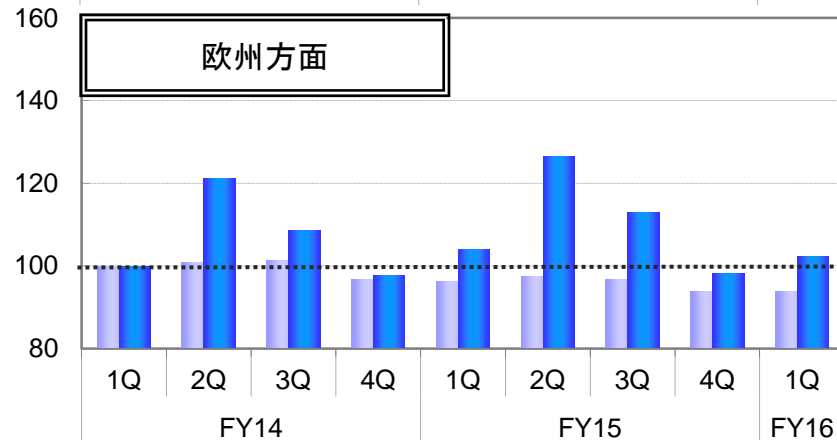
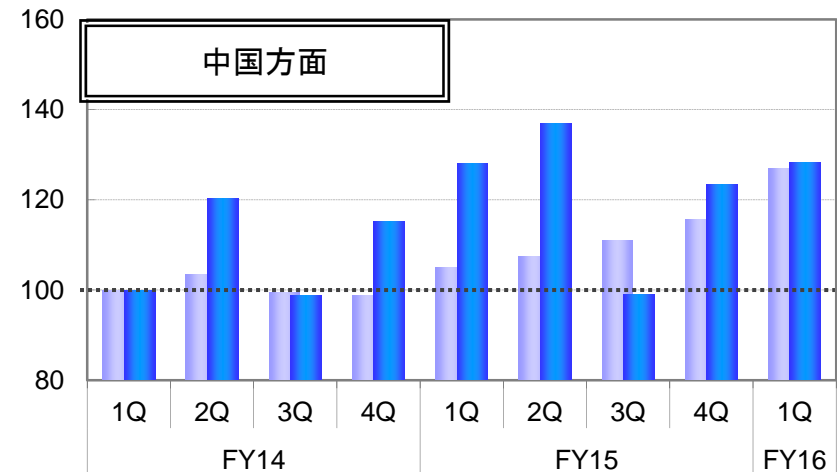
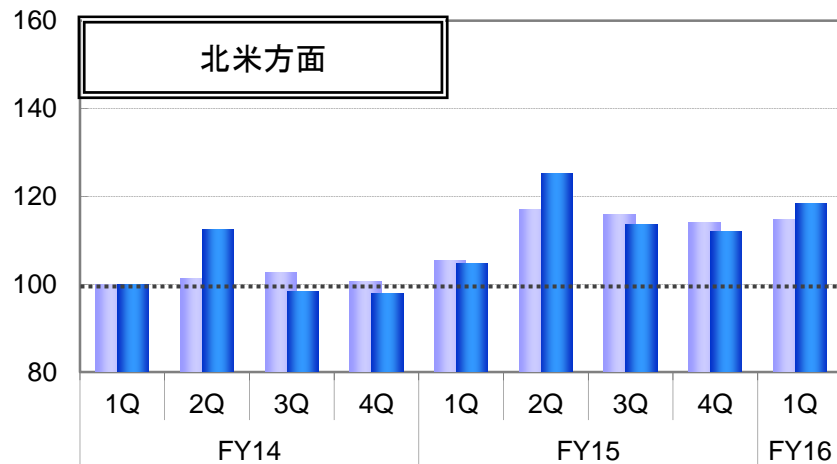
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

四半期別 方面別 座席キロ・旅客キロ 推移

(指数 FY14 1Q=100) ■ : 座席キロ ■ : 旅客キロ



Intentionally Blank

航空事業

国内貨物事業(実績)

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年比(%)	参考*1 前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	441	424	△3.8	
有償貨物トンキロ(百万)	106	105	△0.6	
貨物輸送重量(千トン)	104	103	△1.3	
貨物重量利用率(%)	24.1	24.9	+0.8*2	
貨物収入(億円)	72	71	△1.5	△0.2
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.5	16.9	+2.4	+3.8
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	68.4	67.8	△0.9	+0.4
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	69	69	△0.2	+1.1

*1 「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

*2 貨物重量利用率のみ前年差

Intentionally Blank

航空事業

国際貨物事業(実績)

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年比(%)	参考*1 前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	1,420	1,612	+ 13.6	
有償貨物トンキロ(百万)	828	980	+ 18.4	
貨物輸送重量(千トン)	191	221	+ 15.6	
貨物重量利用率(%)	58.3	60.8	+ 2.5*2	
貨物収入(億円)	288	204	△29.1	△17.3
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	20.3	12.7	△37.5	△27.2
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	34.9	20.9	△40.1	△30.2
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	151	93	△38.6	△28.5

*1 「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

*2 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

【参考】国際フライト(実績)

本表のデータは、P19記載実績の内数

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	311	305	△1.7
有償貨物トンキロ(百万)	170	176	+ 3.3
貨物輸送重量(千トン)	86	90	+ 4.9
貨物重量利用率(%)	54.9	57.7	+ 2.8*
貨物収入(億円)	104	69	△34.0
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	33.7	22.7	△32.8
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	61.5	39.3	△36.1
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	122	77	△37.0

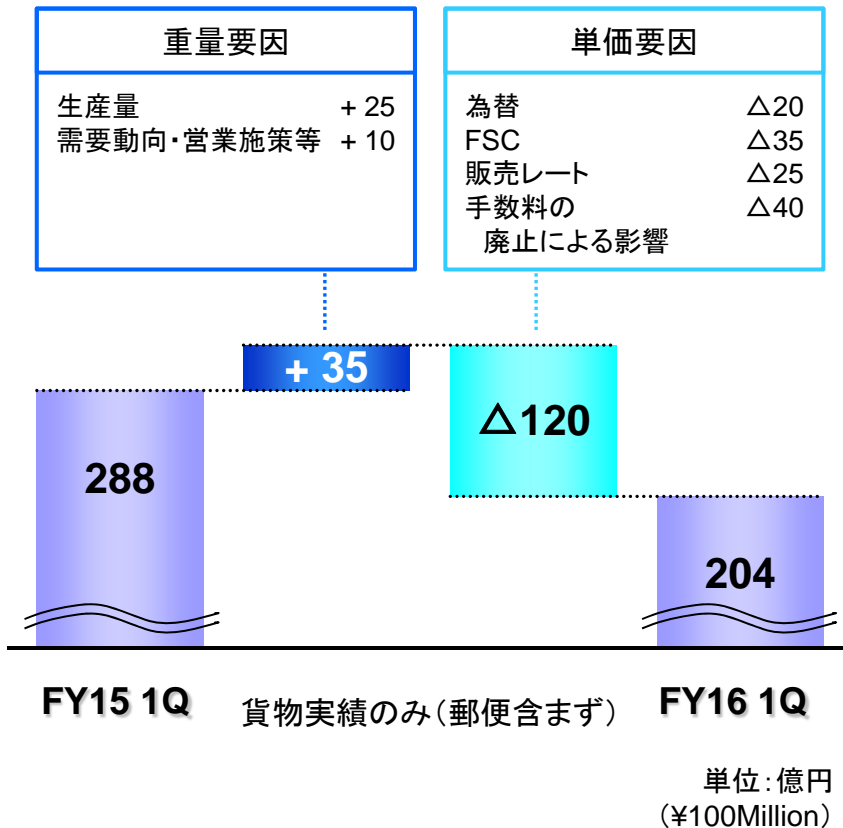
*貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業(事業動向)

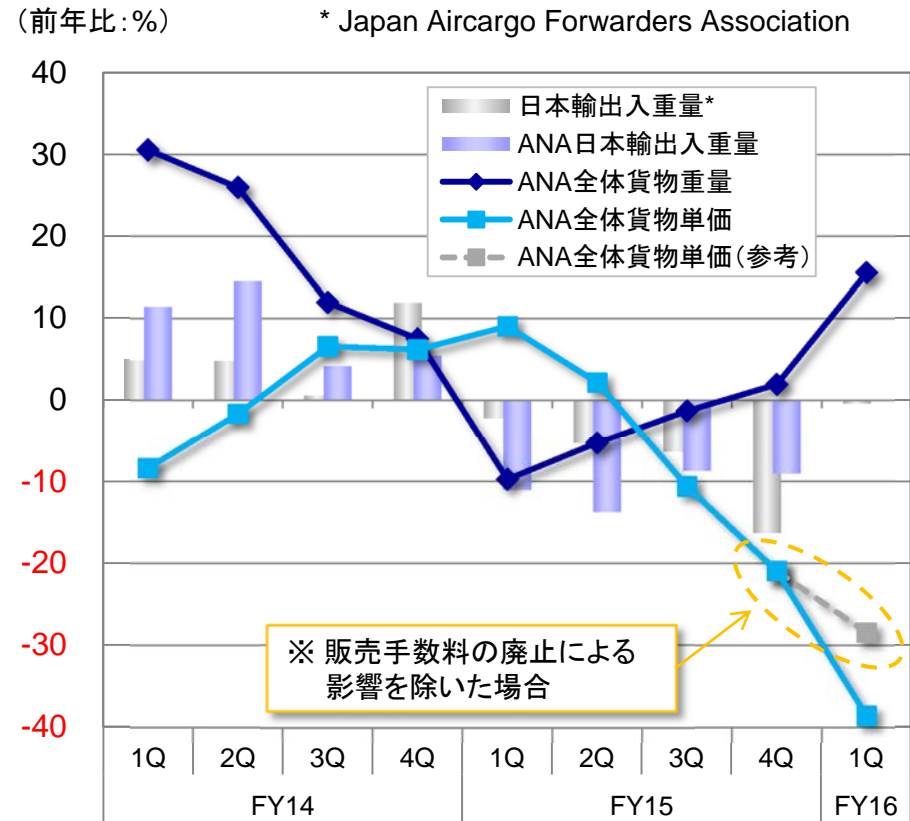
第1四半期 収入増減要因

✓ 為替・FSC影響で単価が低下



四半期別 輸送実績・単価推移

✓ 単価は前年割れが続くが、重量は回復基調



Intentionally Blank

航空事業

LCC事業(バニラエア)

	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	796	911	+ 14.4
旅客キロ(百万)	668	757	+ 13.4
旅客数(千人)	392	446	+ 13.7
座席利用率(%)	83.8	83.1	△0.7*

国内線・国際線合計 * 座席利用率のみ前年差

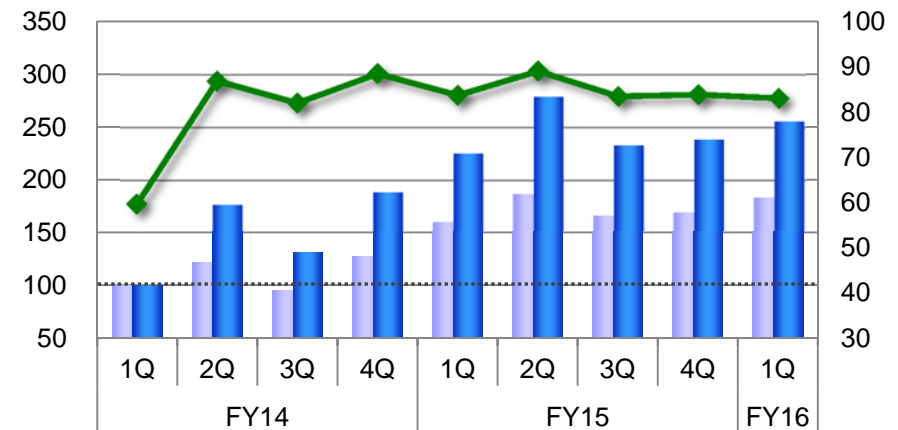
運用航空機数

エアバスA320-200型機：9機
(2016年6月末 現在)

【新規就航路線】

- ・大阪(関西)ー台北(桃園)、4/27就航
- ・沖縄(那覇)ー台北(桃園)、9/14就航予定
- ・東京(成田)ーホーチミンシティ<台北経由>、9/14就航予定

左軸(指数 FY14 1Q=100) ■ 座席キロ ■ 旅客キロ
右軸(単位:%) ◆ 座席利用率



航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

単位：億円

	航空関連事業			旅行事業		
	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差
売上高	578	613	+ 35	363	341	△21
営業利益	19	24	+ 5	5	6	+ 0
減価償却費	12	13	+ 0	0	0	+ 0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	32	37	+ 5	5	6	+ 0
EBITDAマージン(%)	5.6	6.2	+ 0.6	1.6	1.9	+ 0.3

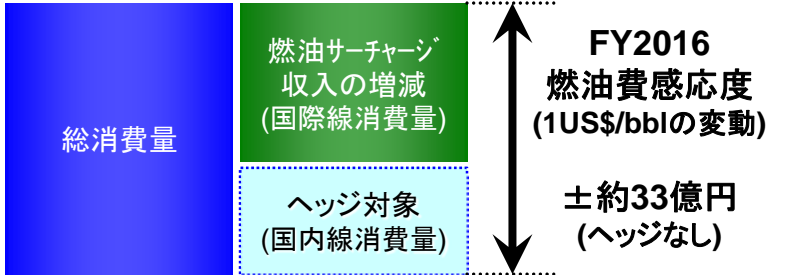
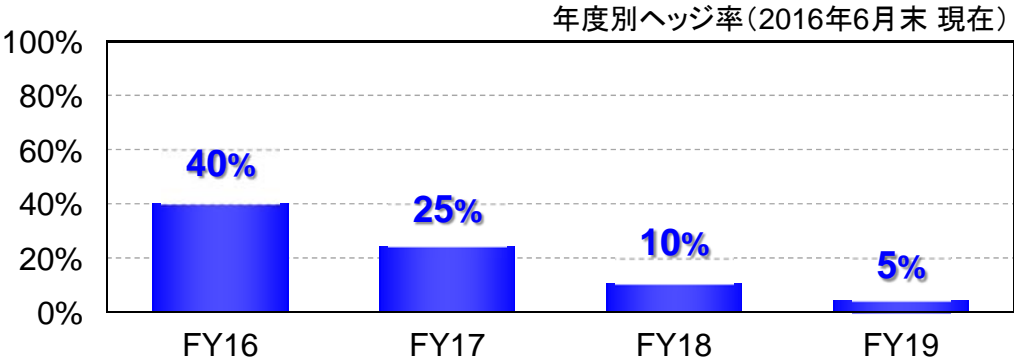
	商社事業			その他		
	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差	FY2015 第1四半期	FY2016 第1四半期	前年差
売上高	352	344	△7	79	83	+ 3
営業利益	14	10	△3	3	4	+ 0
減価償却費	2	2	+ 0	0	0	△0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	16	13	△2	4	4	+ 0
EBITDAマージン(%)	4.6	3.9	△0.7	5.1	5.6	+ 0.5

燃油・為替ヘッジの進捗状況

【燃油ヘッジ 基本方針】

- ・国内線消費量を対象にヘッジ(3年前から取引開始)
- ・国際線消費量は原則としてヘッジ対象外(燃油サーチャージ収入で対応)

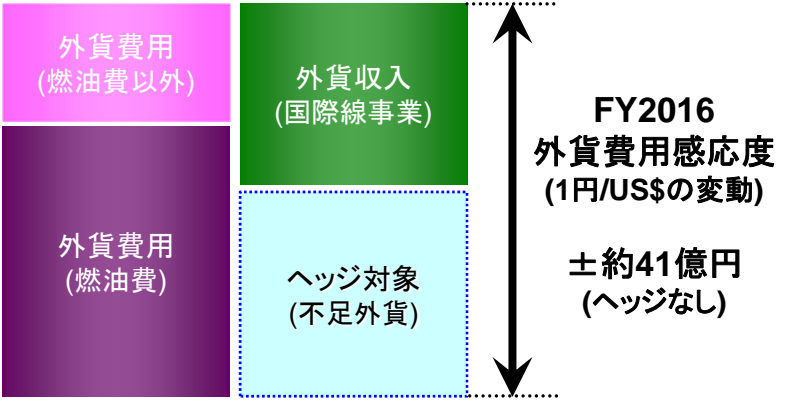
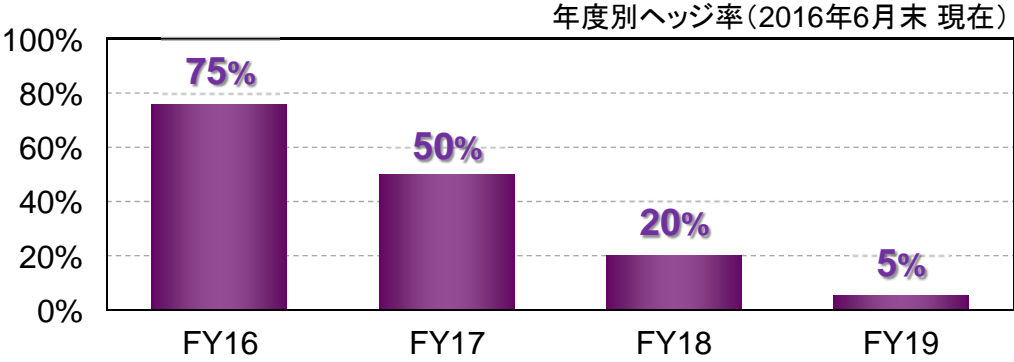
(US\$/bbl)	2016年度 前提値	第1四半期 実績
ドバイ原油	42	43.2
シンガポールケロシン	55	54.4



【為替ヘッジ 基本方針】

- ・不足する外貨量を対象にヘッジ(3年前から取引開始)

(円/US\$)	2016年度 前提値	第1四半期 実績
ドル円レート	115	107.9



Intentionally Blank

補足資料



補足資料

運用航空機数	FY2015 期末	FY2016 第1四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Boeing 777-300ER	22	22	—	16	6
Boeing 777-300	7	7	—	7	—
Boeing 777-200ER	12	12	—	6	6
Boeing 777-200	16	15	△1	13	2
Boeing 787-9	11	11	—	11	—
Boeing 787-8	35	36	+ 1	32	4
Boeing 767-300ER	25	25	—	12	13
Boeing 767-300	13	13	—	13	—
Boeing 767-300F	4	4	—	—	4
Boeing 767-300BCF	8	8	—	8	—
Airbus A320-200	18	19	+ 1	10	9
Boeing 737-800	36	36	—	24	12
Boeing 737-700ER	2	1	△1	1	—
Boeing 737-700	7	7	—	7	—
Boeing 737-500	20	19	△1	19	—
Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	—	18	3
合計	257	256	△1	197	59

バニラエア運用 A320-200 を含む(当第1四半期末 9機、2015年度 期末 8機)
グループ外にリースしている機数を除く(当第1四半期末 17機、2015年度 期末 16機)

補足資料

国際旅客 方面別実績(構成比)

		FY2016 第1四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	32.4	+0.2
	欧州	18.9	△0.6
	中国	13.9	△3.3
	アジア・オセアニア	30.5	+2.5
	リゾート	4.4	+1.2
座席キロ	北米	33.7	△2.2
	欧州	16.2	△3.1
	中国	11.9	+0.5
	アジア・オセアニア	33.2	+3.5
	リゾート	5.0	+1.2
旅客キロ	北米	34.6	△0.9
	欧州	15.6	△2.8
	中国	9.8	△1.6
	アジア・オセアニア	34.3	+3.9
	リゾート	5.8	+1.3

(パニラエア含まず)

補足資料

国際貨物 方面別実績(構成比)

		FY2016 第1四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	22.7	△3.1
	欧州	14.2	+0.7
	中国	34.1	+1.5
	アジア・オセアニア	23.8	+1.6
	その他	5.2	△0.7
有効貨物 トンキロ	北米	36.8	+1.1
	欧州	16.3	△2.7
	中国	16.5	△0.7
	アジア・オセアニア	26.7	+2.8
	その他	3.7	△0.5
有償貨物 トンキロ	北米	37.9	△1.8
	欧州	20.9	△1.7
	中国	13.3	+0.8
	アジア・オセアニア	24.5	+3.6
	その他	3.4	△0.9

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.anahd.co.jp>

株主・投資家情報



決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

メールアドレス ir@anahd.co.jp